

基礎造形実習Ⅰ（複合造形）

1 学年 前期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

現代での幅広い創造分野で表現活動を行うためには、確かな表現力に伴う素材・用具の扱いまでを知る事が不可欠です。複合造形の授業ではその基本となる幾何形体の平面的理解から立体的理解に至るプロセスを実際に経験することから始めます。この授業では、素材を用いて作品制作するうえで必要な基本的な用具・道具（鉛筆、消しゴム、ペン、定規、カッター、接着剤等）について初歩的な使用法をマスターします。また同時に1mm以下の単位で制作することで、各自が制作過程の作法・集中力と成果物（完成作品）のクオリティに対して客観的評価ができる観察力を養います。これらは今後のあらゆる実習における創作に対応する観察力の修得の基盤になるものです。また、平面作品における基本的作法の習得および前期・基礎造形実習Ⅰ各授業にて習得し培った成果を確認し、自己検証をするためのコンクール形式の作品制作を行うものです。これにより限られた時間内でのスケジュール・制作工程を各自が計画し高い完成度の作品制作を目指します。

達成目標

- ・授業、課題の意図、材料・用具の名称、使用法を認識し作業工程を理解・実践できる。
- ・1mm以下の誤差を確認修正でき、作業を正しい作法により行うことができる。
- ・展開図において正確な寸法取りで作図できる。
- ・定規・カッターの正確な扱いにより綺麗に切断ができる。
- ・接合部の辺の調整が適切にでき綺麗に接合できる。
- ・完成物の正確さ、美しさが理解できる。
- ・美しい線が引ける、正確な作図が出来る、ムラなく色を塗れるなど、精緻かつ丁寧な作業をすることができる。
- ・色彩の基礎を理解し、その知識を用いて作品制作ができる。
- ・授業で経験し修得したことを基盤に設定された時間内で十分に課題の意図に応えることができる。
- ・与えられたテーマを、習得してきた構成力、色彩計画による画面を自らの狙いの上に適切に実践することができる。
- ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。

授業計画

- 第1回 授業ガイダンス／課題説明／「幾何立体」制作
 - 第2回 「幾何立体」制作
 - 第3回 「幾何立体」制作
 - 第4回 「幾何立体」制作
 - 第5回 「幾何立体」講評／パネル水張り
 - 第6回 「線・面・多角形」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
 - 第7回 「線・面・多角形」制作
 - 第8回 「線・面・多角形」制作
 - 第9回 「線・面・多角形」制作
 - 第10回 「線・面・多角形」講評会／次課題説明
 - 第11回 色彩構成課題／制作
 - 第12回 課題制作
 - 第13回 課題制作
 - 第14回 講評会1
 - 第15回 講評会2
- *授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50%）
 - ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・適切な質疑応答ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
 - ②成果物（作品）の内容（50%）
 - ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション
- 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で作成を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。

原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルインダーの購入と持参を求めます。）
また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。
PCCSハーモニックカラーチャート201-L 日本色研事業株式会社 1,575円
新配色カード199C 日本色研事業株式会社 2,625円

用具

詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

初回の授業から受講生への伝達事項が多いので必ず大学指定のインダーノートを持参のこと。また各授業では配付プリント、用具等を忘れないよう注意してください。作業が出来ない場合があります授業における作品制作の遅れる原因になります。

デザイン概論

1 学年 前期 必修 講義 2 単位
和田 裕

授業の概要およびテーマ

デザインの専門教育研究機関として設立された長岡造形大学が意図する「デザイン教育・研究の理念」を理解し、デザインの発祥から始まり、現在に至るまでの役割の変化、活動領域、デザインワークの実態等を通し、これからのデザインに求められる理念、知識、技術の概要を把握することにより、長岡造形大学におけるデザイン修学の心構えを養う。

達成目標

長岡造形大学が意図する「デザイン教育・研究の理念」を理解できている。
デザインの発祥から現在に至る道程を理解できている。
他造形領域とデザインの違いを明確に把握している。
デザインの専門領域毎の特性を理解できている。
経営資源としてのデザインの役割を理解できている。
デザイナーとして獲得すべき資質について認識できている。
将来の社会においてデザインの果たす役割を想定できている。
自らの将来を想定し本学で何を学ぶべきかの指針を持ち得ている。

授業計画

- 1) 長岡造形大学の理念
- 2) デザインの発祥と軌跡－1
- 3) デザインの発祥と軌跡－2
- 4) 造形領域概要
- 5) 美術と工芸
- 6) 空間に関わるデザイン
- 7) 立体に関わるデザイン
- 8) 情報に関わるデザイン
- 9) デザイナーの就労形態
- 10) デザイナーの特質
- 11) 経営資源としてのデザイン
- 12) ブランディングに関わるデザイン
- 13) デザイナーの倫理
- 14) デザイン＝革新と創造
- 15) デザインワード&感性

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が80%を下回る場合は単位を与えない。
毎回提出するミニレポートにて理解度を評価する。
レポート未提出、欠席、遅刻、受講姿勢悪しき場合は減点対象とする。

テキスト

必要に応じ授業当日にプリントを配付。

参考書・参考資料等

必要に応じ配付プリントに参考図書を明示。

履修希望者への要望・事前準備

この講義を受講していくにつれ、受講生各自が抱いていたデザインへの認識が変化すると思います。
新たな認識の下、以降のデザインに向かう姿勢を再確認し、もし将来設計を変更するようであれば、興味を抱いた領域、内容に付き更に深い認識が持てるよう各自で補習し、2学年からの履修計画立案の参考にして下さい。
予習は、次回の授業計画のテーマにつき自分なりの見識を持つことです。
復習は、興味を抱いた点、疑問を抱いた点など自らが深く掘り下げることです。
されば学生諸君の未来に生じるかもしれないミスマッチを回避できるでしょう。